

令和6年度 事業報告

1. 法人基本方針と事業内容

【法人理念】

『柔軟な発想と思考を持ち、介護の常識に挑戦し続けることで、
全ての人が希望を持てる未来を』

【令和6年 スローガン】

『実行力を高める～圧倒的な成果を出すチームづくり～』

【事業内容】

- ・特別養護老人ホームえんゆうの郷（定員130名）
- ・特別養護老人ホームえんゆうの郷ショートステイ（定員10名）
- ・グループホームなぎさ（定員18名）
- ・デイサービスセンターなぎさ（定員20名）

【法人方針】

社会福祉法人誠光福祉会は、安定した経営基盤を確立させ老人福祉法、介護保険法、障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律に基づき、各種介護サービスを通じ積極的に地域社会に参画し質の高いサービスを提供することで、利用者から選ばれる地域に根ざした福祉・介護の拠点となることを目指す。

2. 令和6年度の重要課題の取組み

(1) 実行力を高める～圧倒的な成果を出すチームづくり～

- ・会議体を見直し、トップの指示の基で実行力のあるチームづくりを行う。
→今年度より理事長直下に運営会議を開催し、事務長、施設長、副施設長、管理者が参加し、情報共有を行っている。
- ・リーダーの育成を強化し、速やかに変革を実現する。
→10月に講師を招いての研修会を開催予定
- ・地域の要請に応じ、チームで他法人の支援を行う。
→社会福祉法人友愛から、地域密着型介護老人福祉施設、認知症高齢者グループホーム各1施設ずつの事業支援を行う。
法人職員 計10名を出向させ、各事業の運営支援を実施。
令和7年4月より当法人にて2事業を継承して運営を行う事となる。

(2) 人財育成と介護サービスの充実

- ・外部研修や自己研鑽を積極的に支援し介護のプロフェッショナルを養成する。
 - ・取組み事例発表会を継続して行い主体的な活動と発信力の強化を図る。
- 例年通り、3月に開催し10題の発表があった。次年度に向けて新たに取り組みを開始する。
- 外国人特定技能実習生 11月に4名受け入れ（フィリピンから）
受け入れの為、社員寮を整備した。
現場にて教育、指導を行っている。

(3) 地域から選ばれる施設運営

- ・見学会等の地域交流イベントを実施し、地域にとって身近な施設づくりを行う。
- 10月にえんゆうの郷にて「えんゆうマルシェ」を地域の方にも広く周知し開催した。
- ・地域に開放された施設として、地域カフェ等を定期的実施する。
- 毎月第3土曜日午後にえんゆうの郷 地域交流サロン落雁にて地域カフェを開催
- ・Instagramやホームページを使って積極的に活動を発信する。
- Instagram年間更新数 149件 月平均閲覧数 4422回
ご家族からの閲覧の反応もある。
- ・地域清掃や行事、研修会に積極的に参加し地域の一員としての役割を担う。
- えんゆうの郷、なぎさ各施設にて定期的地域行事に参加

3. 令和6年度目標値

(1) 特別養護老人ホーム えんゆうの郷（定員130名）

平均稼働 127.4名/日（稼働率98%）

→実績 124.4名/日（稼働率 95.7%）

(2) 特別養護老人ホーム えんゆうの郷ショートステイ（定員10名）

平均稼働 9.0名/日（稼働率90%）

→実績 9.7名/日（稼働率 96.6%）

(3) デイサービスセンターなぎさ（定員20名）

平均稼働 18.0名/日（稼働率90%）

→実績 14.5名/日（稼働率 72.7%）

(4) グループホームなぎさ（定員18名）

平均稼働 17.6名/日（稼働率98%）

→実績 17.8名/日（稼働率 98.9%）

特別養護老人ホームえんゆうの郷 令和6年度 事業報告

1. 施設の運営方針

- (1) 介護の常識に挑戦し、より強い介護職員を育成し実行力を高める。
- (2) 入居者、職員、地域の方を含めてすべての人が明るくつながる取り組みを実施する。

2. 重点課題の取り組み

(1) 介護職員の体制を見直し、職員育成の強化を図る

介護業界全体で労働者数が減少している中で、よりきめ細かに職員への支援体制を整え、人財育成の強化を図る。

【具体的内容】

- ・介護支援室から各部署への応援体制を整える。
- ・必要な業務整理を実施為に介護職員からの意見を積極的に取り入れる。
- ・記録などの面で ICT 技術の導入し業務連携と効率化を進める。

【目標設定】

- ・特養入所目標 127.4名/日（稼働率98%）
→ 実績 124.4名/日（稼働率 95.7%）
- ・介護支援室室長の配置を検討する。
- ・ベットセンサー カメラ等の機器の導入
ベットセンサー、カメラ、通信環境整備等
→ ミリ波レーダーを各居室に設置し運用を開始する。

(2) 人財育成の強化と介護人材の確保

特に人財育成の要となる、教育に当たる次世代リーダーの育成も積極的に取り組み、実行力を高める。

【具体的内容】

- ・介護支援室の応援体制を整える為に、介護支援室主任を中心としてリーダーの教育を推進する。
- ・職員面談やユニット会議などで意見を聞き、職員の成長を図り、実行力のある人材を育成し、チーム作りを促進する。
- ・滋賀県社会福祉学会での発表を実施する。

【目標設定】

- ・外部研修 特にリーダー育成研修 4件参加と伝達研修の開催
→ ユニットリーダー研修 2名受講
認知症リーダー研修 1名受講しそれぞれ修了する。
講師を招いた研修を開催し10名が参加する

- ・介護保険改定での新要件充足に伴う認知症チームケア加算の取得
→認知症チームケア加算（Ⅱ）について、必要研修を受講し6月から算定
- ・内部研修開催 12件
→ 12件実施
- ・滋賀県社会福祉学会での研究発表の実施
→ 今年度は発表できず。
他に滋賀県老人福祉施設協議会で参加していた「福祉のキラビトプロジェクト」にて全国発表「ウェルビーイングアワード 2025」にて共同発表を行い、GOLD賞を受賞する。

(3) 地域につながる取り組み

地域に開かれた施設、地域の方と暮らしていくことが実感できる施設となる為に、山田学区内の各種団体との交流企画を引き続き促進していく。

【具体的内容】

- ・山田学区ふれあいまつりへ参画を継続して実施する。
- ・子供たちとのご縁を大切にするため、山田こども園と交流を継続する。
- ・山田学区社会福祉協議会と連携しての地域カフェを定期的に継続して開催する。
- ・定期的な周辺の清掃活動を実施し、地域美化に貢献する。

【目標設定】

- ・山田学区ふれあいまつりへの参画
→ 今年度は10月にえんゆうマルシェを地域への広報を行いながら開催し多くの参加者があった。次年度も開催予定となる。
- ・地域清掃活動 年3回実施
→ 5月、10月、2月に実施
- ・山田こども園との交流 年2回実施
→ 山田こども園とは12月と3月にプレゼント交換を実施
木川町のすぎのこども園との交流も開始 7月、9月に来所
- ・やまだカフェの開催 年6回以上実施
→毎月第3土曜日に開催、年度内に11回開催

(4) 入居者、ご家族とつながる取り組み

入居者への気配りを継続しながら、ご家族との連絡を密に取り合い、職員との協力体制を確立する。

【具体的内容】

- ・施設行事等の取り組みをご家族にお伝えし、ホームページ等を活用し発信も行う。
- ・細かなこともすぐに連絡を取り意向確認を行い、トラブルの際には早急に対応する。
- ・細かな苦情も苦情処理調整委員会へ諮り、意見を生かした対応を行う。

【目標設定】

・イベントの発信など SNS 更新件数 12 件

→インスタグラム年間更新数 149 件 月平均閲覧数 4422 回

3. 施設設備・備品 購入修理など

ミリ波レーダーを各居室に設置

食器洗浄乾燥機修理

衣類用乾燥機 修理

全自動洗濯機 購入

詰所エアコン修理

車いす修理

特殊浴槽 修理

消防設備修理

ショートステイえんゆうの郷 令和6年度 事業報告

1. 施設の運営方針

- (ア) 介護の常識に挑戦し、より強い介護職員を育成し実行力を高める。
- (イ) 入居者、職員、地域の方を含めてすべての人が明るくつながる取り組みを実施する。

2. 重点課題の取組み

(1) 安定した事業運営と外部事業所との連携の推進

法人内事業所や各居宅支援事業所、老人保健施設などとの連携し、より多くの方に施設を利用してもらい、安定した運営を行う。

【具体的内容】

- ・法人内事業所で情報を共有し、空床日数を減らす。
- ・居宅介護支援事業所へ空床情報の提供し、緊急時にも柔軟な対応を行う。

【目標設定】

- ・ショートステイ稼働目標 9床/日（稼働率90%）
→ 稼働 9.7名/日（稼働率 96.6%）
- ・実利用人数 50名/月
→ 平均実利用人数 37.4名/月
- ・延べ利用者数 279名/月
→ 平均延べ数 304.2名/月

(2) サービスの質を向上し利用促進を図る

利用者及びご家族に満足して頂けるように、連絡を密にとり、小さな意見もお聞きしながら、サービスの質の向上に努める。

【具体的内容】

- ・リーダーを中心として、工夫を凝らした介護の展開を進める。
- ・ご本人及びご家族からの意見などを活かした改善に努める。
- ・ご家族との連絡を密にするため、現場職員による利用者送迎の実施。
- ・細かな苦情も苦情処理調整委員会に諮り、ご意見をもとに改善を図る。
- ・多職種との連携を図る為のリーダー育成。

【目標設定】

- ・外部研修 特にリーダー研修参加（県社協、介護福祉士会等） 1件
→ 講師を招いた研修へリーダーが参加

3. 施設設備・備品 購入修理など

衣類用乾燥機 修理

グループホームなぎさ 令和6年度事業報告

1. 施設の運営方針

- (1) 医療機関との連携を密にし、ご入居者の健康維持・促進を行う。また、その人らしさを大切にしながら、昔なじみの生活・暮らしの継続ができるように努める。
- (2) ご家族様との信頼関係の構築や地域との結びつきを大切に、常に地域社会の一員である事を認識し、地域活動にも積極的に参加する。
- (3) 内部・外部研修等には積極的に参加を行い、個々のスキルアップを目指す。また、学び得た内容を職員間で共有しサービスの質の向上へとつなげる。

2. 重点課題の取組み

(1) 実行力を高める～圧倒的な成果を出すチームづくり～

- ・ご入居者の夢や想いを実現できるよう「夢叶うプロジェクト」を発足
介護スタッフ自らが、ヒアリングから企画・立案・実施までを行い、ご入居者の想いをしっかり把握でき、個別ケアへと繋げる。又ご家族とも寄り添い、参加してもらう事で家族支援にもつなげる。
→ご入居者9名の方夢実現に向けて取り組みを実施。ご家族とも協力のもと、すべての方の夢実現が叶った。その取り組み事例を3月の「取り組み事例発表会～ノビルバ～」で発表。委員の方にも評価を得られた。
- ・見守り機器等テクノロジーの導入活用と通信環境設備を整備する事で安心・安全・快適な生活環境を整えると共に、職員にとっても働きやすい職場環境づくりに努める。
→県の介護ロボット助成金を活用し、通信環境の整備とミリ波レーダー機器導入ができた。今後設置した機器のより良い活用に向けて取り組んでいる。
- ・訪問がしやすい雰囲気醸成するとともに、ケアカンファレンスは事前の日程調整のうえご入居者、ご家族の参加のもとに行い、ケアプラン作成にご入居者、ご家族の意思を反映する。
→訪問しやすいように面会制限の緩和を行い、気軽に立ち寄ってもらえる環境を整えた。訪問の際には、日頃の様子や支援のあり方等伝え関係性構築にも繋がった。

(2) 組織力を高め、安定した施設事業運営

- ・平均稼働 17.6名/日（稼働率98%）を維持する。
- ・法人内での連携を強化する為、委員会活動等法人合同で行い、互いに高め合う関係を築く。
- ・看護職との連携体制を強化し、ご入居者の日々の健康観察から異変の早期発見へ繋げ

る。

- ・入退院時には、多職種連携強化に努め、情報提供・共有を行い迅速な対応を行う。

→年間稼働実績 17.8名/日 稼働率 99.2% を達成

2月3月と入退居者が4名と重なったが、法人内で協力し平均空室期間4日間とスムーズな入退居連携となり、稼働に大きな影響を与えなく行えた。

(3) 人財育成と介護サービスの質の向上

- ・階層別研修や就業年数に応じた研修を強化し、知識・技術の習得だけではなく組織の一員として、自ら考え行動するといった職員自身の質向上を目指す。

- ・チームでつくる介護計画とモニタリング

ご入居者がよりよく暮らせる為の課題とケアのあり方について、ご本人、ご家族とも話し合いそれぞれの意見やアイデアを反映しケアプラン作成にあたる。

→外部研修 21件、25名が参加

内部研修 16件、212名が参加

学び得たい研修希望に沿って実施したことで、前年度よりも受講者数増加。

受講者には、伝達講習を行ってもらい学びを共有できた。

(4) ご入居者、ご家族と共に支え合う関係づくり

- ・画一的なサービス提供にならないよう、ご入居者が自由に過ごされる時間を大切にすると共に、季節行事やレクリエーション活動など、ご入居者が選択できるサービスを充実していく。施設全体行事には、ご家族の参加が得られるように働きかけていく。
- ・ご家族への配慮を忘れず、ご入居者の状況報告などこまめに連絡をとることで安心感に繋げる。

- ・日々の様子や活動を広報誌やSNSを通じて内外に発信を行う。

→ご入居者の要望に応じた行事を立案。特に手料理行事の実施では、料理工程を細分化したことで、できる事が増え意欲向上にも繋がった。

行事や活動等インスタグラムにて投稿(年間 件)内外に発信をおこなった。「広報誌」、「なぎさだより」を年4回季節ごとに発行し、ご家族や地域住民向けにも発信ができた。

(5) 事業所の力を活かした地域貢献

- ・笠縫東学区内の各種団体との繋がりを大切にし、地域行事や研修会への参加を通して、地域での課題やニーズに寄り添える活動に繋げる。

→笠縫東学区の「健康づくり研修会」で講師役として打診があり、年4回(8月9月10月11月)健康寿命促進を題材にした講演を実施した。

11月地域の中学校の授業の一環で中学生3名が来所。地域での役割や介護のやりがい等質問に回答。後日発表会に招待学びを共有できた。

- ・デイサービスとも協力し、ボランティアの方々との交流を継続し、多様なボランティ

ア活動の場を提供する。

→演奏ボランティアの受け入れを通して、デイサービスご利用者との交流にも繋がった。

- ・年6回の運営推進会議を通じての情報交換やご意見、ご要望を収集すると共にサービス向上へと活かす。

→運営推進会議を年6回開催。2月には、導入したミリ波センサー機器の説明を行い、実際の稼動状況を拝見され、よさを実体験してもらえた。

3. 職種別職員数（令和7年4月1日現在）

常勤職員10名、非常勤職員7名

（内 介護福祉士12名 介護職員5名）

※前年度 常勤職員11名、非常勤職員6名

（内 介護福祉士13名 介護職員4名）

4. 年間行事・会議・防災訓練等実施内容

別紙「なぎさ 行事等実施報告」を参照。

5. 職員研修実施内容

別紙「なぎさ 内部研修実施報告」を参照。

別紙「なぎさ 外部研修実施報告」を参照。

6. その他（建物等修理修繕の実施、設備・備品等の設備内容等）

- ・1階2階トイレ洗面台カートリッジ交換 7ヵ所
- ・パソコンSSDへ交換 7台
- ・2階居室エアコン交換 1台
- ・2階乾燥機購入 1台
- ・2階洗濯機購入 1台
- ・1階ホール、廊下エアコン配管水漏れ修繕
- ・ミリ波レーダー設置 18室
- ・通信環境整備 Wi-Fi 機器2ヵ所 LAN 設置 18室
- ・エアコン更新 2台
- ・居室換気扇修理 1室

1. 施設の運営方針

- (1) 体制を刷新し、安定した運営を行う。
- (2) 地域社会から信頼される施設となるよう、その役割と責任を果たす。

2. 重点課題の取り組み

- (1) 職種間の連携を図り、専門性を活かしたサービスを提供する。

- ・個々の課題やニーズを的確に把握し、満足感や達成感が得られる援助を行う。
- ・業務の改善を図り、チームケアを通じて組織力向上を図り、実行力を高める
- ・安定した日常生活が送れるよう、意欲が引き出せる自立支援を行う。

→えんゆうの郷相談員、セラピストとも連携し、自律支援（専門職立案の運動）、自己決定（個々の役割意識）、社会貢献（ボランティアの活用）と3本柱を軸に業務改善に繋がる活動を導き出した。引き続き、その柱を軸にケアの質向上に向けて取り組んでいく。

- (2) 家族・関係機関との連携強化

- ・日頃の様子や活動内容を、SNS や活動通信などを通じて定期的に発信し、利用者・家族の思いや声が反映されるような施設作りを行う。
 - ・事業所や関係機関との連携を密にし、地域における課題や個々のニーズを把握し、情報共有するとともに、日常の取り組みをわかりやすく説明をする。
- 日々の取り組み活動をInstagramに掲載（年35回更新）外部に発信した。毎月の活動通信にも反映し、ご家族、担当ケアマネージャ等にも活動の取り組み内容を見て感じてもらえた。

- (3) 地域社会に開かれた魅力ある施設

- ・地元学区を中心に、年間を通じて開催されるイベントや講演会などに積極的に参加し、地域交流の促進を図る。
- ・地域住民が気楽に立ち寄れる身近な存在となるよう、施設の持つ役割や魅力を機会を通じてアピールする。

→笠縫東学区での地域で抱える問題として、駐車場問題があがり、事業所内の駐車場を利用する取り組みへと協力関係が築けた。

中学生の職場体験や看護学校の実習受け入れ等柔軟に対応し、中学校から発表会にも招待があり、交流促進に繋がる活動となった。

(4) 安定した稼働に向けて

- ・ 90%の稼働を目標にした、安定したサービスの継続を目指す。
- ・ 事業所廻りを通じて、信頼と安心に繋がるアナウンスを行う。
- ・ 寄り添う思いが届けられるよう発信力を高める。

→年間稼働実績 14.6名/日（稼働率 72.7%）

新規利用者 26名（前年度 11名）

介護予防サービス対象者の受け入れを行い、間口を広げた事で新規利用者増加に繋がった。

法人内の相談員とも協力し営業活動を行っていく。

2. 定員 20名

登録利用者数 46名（4月1日時点）

介護度別 要支援 1 1名、要支援 2 1名、
要介護 1 25名、要介護 2 9名、要介護 3 5名、
要介護 4 3名、要介護 5 2名

3. 職種別職員数

常勤職員 3名、非常勤職員 10名

（介護福祉士 5名、介護職員 2名、看護師 2名、配膳員等 4名）

※前年度 常勤職員 4名、非常勤職員 11名

（介護福祉士 7名、介護職員 2名、看護師 2名、配膳員等 4名）

4. 年間行事・会議・防災訓練等実施内容

別紙「なぎさ 年間行事等実施報告」を参照。

5. 職員研修実施内容

別紙「なぎさ 内部研修実施報告」を参照。

別紙「なぎさ 外部研修実施報告」を参照

6. その他（主な施設備品修理、購入など）

洗面台小型温水器 交換修理 3台

浴室手すり設置 2ヶ所

シャワーチェアストッパー修理 1台

循環器浴槽薬注ポンプの修理

浴室換気扇交換 2台